



Sport in Life Award

第2回

受賞プロジェクト
事例のご紹介

目次

Sport in Life 2022 大賞(最優秀賞)

parkrun(パークラン) / 一般社団法人 parkrun Japan 02

優秀賞/企業部門

企業版ふるさと納税を活用した社内ウォーキングイベント
「歩くふるさと納税」 / アステナホールディングス株式会社 03

スポーツアフターワーク / 一般社団法人ルートプラス 04

働く人のウェルビーイングを実現する
「ウェルネスプログラム」 / 株式会社ユーフォリア 05

優秀賞/団体部門

お昼休み☆20分ゆるゆるストレッチ /
一般社団法人 公園からの健康づくりネット 06

シニア向け「健康ダンス教室」の開催 /
一般社団法人ダンス教育振興連盟JDAC 07

優秀賞/自治体部門

しながわ学校2020レガシー / 品川区教育委員会 08

スポーツのチカラで村を元気に！ 地域多世代交流活動
「孺恋村フィットネスフェスタ2022」 / 孺恋村 09

館山市スポーツ推進委員による、
身近で気軽な楽しいスポーツ事業！ / 館山市 10

第2回Sport in Life アワード 実施概要

実施概要

主催	スポーツ庁(Sport in Life プロジェクト)
実施期間	◆応募受付 令和4年10月11日(火)～12月9日(金) ◆表彰式 令和5年3月上旬(予定) 会場:東京ポートシティ竹芝ポートホールまたはオンライン(予定)
応募対象	地方公共団体・関連団体、スポーツ関連団体(スポーツに関する活動を主に実施している団体/競技団体など)、経済団体、学校・教育団体、医療福祉団体、民間企業など、アワード趣旨に賛同いただける方は誰でも応募可能です。 ※令和3年4月1日以降で実施された活動を含む取り組みを基本的な対象とします。
応募要件	上記応募対象に加え、Sport in Lifeコンソーシアムへ加盟いただくことが必須です。 加盟申請がお済みでない方は申請をお願い致します。
募集部門	<input type="checkbox"/> 企業部門 <input type="checkbox"/> 団体部門 <input type="checkbox"/> 自治体部門
応募先	Sport in Life 運営事務局
応募方法	Sport in Life公式ホームページ参照
スケジュール	◆応募期間 令和4年10月11日(火)～12月9日(金) →一次審査(書類審査) <12月中旬> →最終審査会 <1月中旬> →受賞候補者通知 <1月下旬> →表彰式 <3月上旬予定>

表彰



Sport In Life 2022 大賞(最優秀賞) 1件
 Sport In Life 2022 優秀賞/企業部門 3件程度
 Sport In Life 2022 優秀賞/団体部門 3件程度
 Sport In Life 2022 優秀賞/自治体部門 3件程度
 Sport In Life 2022 Sport In Life 2022賞

受賞後の特典

特典 1 受賞取組内容を「Sport in Life」ウェブサイト※に掲載!

※<https://sportinlife.go.jp/award/result/images/result.pdf>

特典 2 受賞ロゴマークを使用可能!

Sport in Life Award

特典 3 各種メディアの他、Sport in Life 関係のWEB媒体・イベント等でも皆さまを紹介!

審査

5つの評価視点

評価視点	具体的なポイント
Sport in Lifeの理念	(1) Sport in Lifeの理念を理解しているか?
スポーツ実施者の増加	(2) スポーツを行うきっかけづくりにつながっているか?
スポーツ習慣化の推進	(3) スポーツを行う習慣化につながっているか?
スポーツへの親しみやすさ	(4) スポーツへの親しみやすさにつながっているか?
スポーツの裾野の広がりのやすさ	(5) 企業・団体・自治体のモデルとして他の地域や属性などへの広がりが期待できるか?

募集する取組アクション(例)

1 子供・若者向けアクション	空き地や生活道路など、子供・若者が身近な場所で自由に運動遊びをする環境を整備した。親子で一緒にスポーツを楽しむ取組が広がった。地域におけるスポーツ機会の確保、生徒の多様なニーズに合った活動機会の充実等を図った。
2 働く世代・子育て世代向けアクション	仕事や運動をしながら、ちょっとした工夫のできる運動を推進した。子供をきっかけに、親世代のスポーツ実施が促進された。
3 女性向けアクション	日常生活、動作の中で、いつの間にか運動をしている仕掛けをつくった。スポーツの楽しさ、カッコよさを入口にスポーツ実施につなげた。
4 高齢者向けアクション	無理のない範囲で自分にあったスポーツを実施した。地域でのスポーツ活動を通じて、世代を問わないスポーツ交流へつながった。
5 障害者向けアクション	誰もが一緒に楽しめる、自分に合わせて楽しめるスポーツを実施した。スポーツを通じて「地域デビュー」することが促進された。

審査員

阿部 厚司
 千葉大学 コミュニティ・イノベーションオフィス
 特任専門員/地域コーディネーター
 ㈱ミライノラボ 取締役COO

伊藤 華英
 競泳元日本代表
 一般社団法人スポーツを止めるな1252プロジェクトリーダー

甲斐 裕子
 公益財団法人 明治安田厚生事業団
 体力医学研究所・上席研究員

河本 敏夫
 株式会社NTTデータ経営研究所 アソシエイトパートナー
 Sports-Tech & Business Lab事務局長

高岡 敦史
 岡山大学大学院教育学研究科 准教授
 合同会社Sports Drive 代表社員

高橋 伸佳
 兵庫県公立大学法人芸術文化観光専門職大学 准教授
 特定非営利活動法人日本ヘルスツーリズム振興機構 業務執行担当理事

萩 裕美子
 東海大学 体育学研究科長 教授

原田 宗彦
 大阪体育大学 学長

プロジェクト名	parkrun(パークラン)
受賞者	一般社団法人 parkrun Japan

所在地	〒150-6018 東京都渋谷区恵比寿恵比寿ガーデンプレイス18階
URL	https://www.parkrun.jp/

①取組の経緯

健康で幸せな世界をつくることを目指して

parkrunは2004年にイギリスで発祥した無料のコミュニティイベントです。日本では2019年4月から始まりました。

運動する妨げとなる要因を取り除くため、運動が苦手な人たちも引け目なく参加できるようにウォーキングを推進しています。子供と一緒に参加できるので子守りを探さなくても気軽に参加できます。また、忙しい家族でも家族全員で参加することで家族のコミュニケーションと運動が同時に出来る時間にもなります。障がいのある方々も気軽に参加していただけるようにしています。

人々が楽しめる交流の場ともなるのでメンタルヘルス向上にも役立っています。

毎回「初参加者歓迎」を行い、初めての参加でも安心して馴染めるようにお迎えし、毎週新たな参加者の増加を目指しています。



②事業の概要と特徴

シンプルに、安全に、拡張、継続できるイベント

全国17都府県、30ヶ所以上で開催(2023年3月現在)

毎週土曜日朝8時スタート 参加費無料 事前予約不要
5キロのウォーキング、ジョギング、ランニング、ボランティアができます。

様々な年齢層、性別、国籍、体型、運動能力や身体機能、職業、バックグラウンドに関わらず皆が平等に一緒に楽しく屋外で活動できる場を提供しています。

2022年の1年間で1,618回イベントを実施。累計61,499人が参加しました。



③取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

だれもが一緒に楽しめる「どなたでもずっと無料」のイベント

新たな開催場所を開設する方法もシンプルで、地元住民ボランティアが集まり場所が決まれば無料で本部が支援します。

イベントの遂行は地域住民ボランティアが行っており、いつでも誰もが経験を問われずボランティアとして参加することができます。2023年には累計15,146人がボランティアをしました。

事前の参加申し込みは不要なので、縛られることなくいつでも気軽に参加できますが「そこに行けばparkrun仲間がいる」という誰もを受け入れるコミュニティが形成され、安全な社会、地域活性化にもつながります。

毎週開催しているので継続的に生活習慣に取り入れやすくなっています。





プロジェクト名	企業版ふるさと納税を活用した社内ウォーキングイベント「歩くふるさと納税」
受賞者	アステナホールディングス株式会社

所在地	東京都中央区日本橋本町四丁目8番2号
URL	https://fufuru-tax.jp/introduction/

①取組の経緯

「職場の運動」の参加率向上のために面白さを追求

■ 取り組んだ課題

「職場の運動」の取り組みとして、毎年開催していた「社内ウォーキングイベント」の参加者が固定化してしまっていたことが課題でした。

■ 「歩くふるさと納税」誕生の背景

東京五輪を翌年に控えた2019年に「社内ウォーキングイベントで東京五輪を応援しよう」という趣旨で、「従業員の歩数に応じた金額を東京五輪に寄付をする」企画を従業員の発案で実施したところ、参加者が例年の約250人から約370人(参加率は約30%→約40%)に向上しました。

この経験に可能性を感じ、アイデアを出し合い「社内ウォーキングイベントの歩数に応じて、社会貢献の寄付(企業版ふるさと納税)をする」という形が誕生しました。

■ 「職場の運動」の取り組みの普及を目指して

現在は、専用のスマートフォンアプリも開発してサービスとして社外提供もしています。(費用は自治体への寄付金のみで、利用料は無料)

専用スマートフォンアプリ



社内に掲示したポスター



②事業の概要と特徴

「健康経営」と「社会貢献」を同時に実現する社内ウォーキングイベント

■ 概要

歩くふるさと納税は、「社内ウォーキングイベントで従業員が歩いた歩数に応じて、企業が社会貢献のための寄付(企業版ふるさと納税)をする」というものです。

■ 特徴

企業、自治体、働く個人それぞれメリットがある「三方良しの仕組み」が特徴です。

	メリット①	メリット②
企業	健康経営 + 社会貢献活動	低コスト ※
自治体	寄付による歳入増加	企業向けイベントによる交流人口増加
働く人(個人)	社会貢献活動への参加	歩数ポイントが貯まる

※ 企業版ふるさと納税により寄付負担が最大9割軽減されます。



③取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

間口がとても広い「職場×ウォーキング」

■ 間口の広さ

働く人が人生の多くの時間を過ごす「職場」を舞台に、最も間口の広いスポーツである「ウォーキング」をテーマにしていることで、誰もが気軽にスポーツを楽しめる企画になっています。

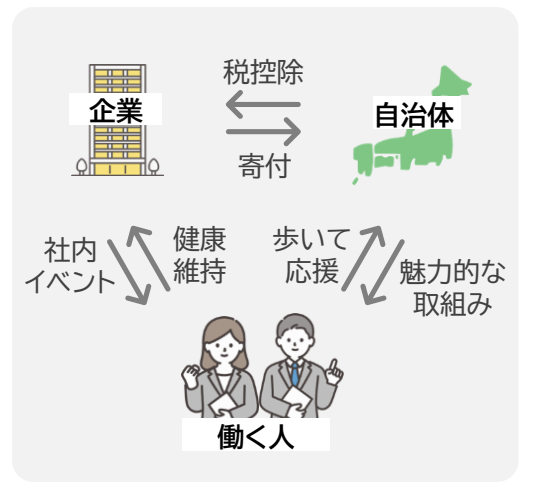
■ 歩数が社会課題の解決につながる

働く人の歩数が、寄付(企業版ふるさと納税)による社会課題解決(※)につながるため、運動のモチベーションになります。

※人口減少、医療、教育、スポーツ振興、観光振興などの地域課題

■ 「職場の運動」が企業と自治体の共通テーマに

「職場の運動」が企業と自治体の共通テーマになるので、新しいコラボレーションが生まれるきっかけになります。



プロジェクト名	スポーツアフターワーク	所在地	福岡県福津市日蔭野4-8-14
受賞者	一般社団法人ルートプラス	URL	https://roouteplus-group.com

①取組の経緯

「仕事」と「健康づくり」の両立

日々仕事に励む中で、「今まで日常的に行っていたスポーツができなくなっている」ことに気づいた。

スポーツ庁の調査を見ると「働く世代のスポーツ実施率が低い」ことを知り、社会的課題の解決にもつながればと、2018年から当初は「従業員の健康づくり」を目的に活動を開始した。

活動を開始し継続していく中で、従業員全員が参加できる「時間と場所を確保すること」、「運動の得意苦手に関係なく全員が楽しめること」が課題だった。

様々な工夫をして課題を解決する中で、「従業員の家族」が参加するようになり、「従業員の知り合いやその子ども」までもが参加するようになり、現在のスポーツアフターワークになった。

今では、活動が地域に広がり、様々な方が参加して下さるようになって、毎週継続的に実施している。



②事業の概要と特徴

誰もが楽しめるスポーツ活動！

- ・毎週月金曜日の20時～22時に、参加者が30分程度で自宅から移動できる場所にある体育館にて実施。
- ・従業員・従業員の家族や知り合い・園児や小学生の子ども達など、20名前後の方々が毎回参加している。
- ・バレーボールやバスケットボールなどのメジャースポーツだけではなく、バドミントンやスポレックなど、様々なスポーツを実施中。
- ・従業員の週1回以上のスポーツ実施率100%
- ・参加する地域社会人の週1回以上のスポーツ実施率100%
- ・スポーツエールカンパニー ブロンズプラス 認定



③取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

“誰もが一緒に”楽しめるスポーツ！

- ・行うスポーツレベルは、競技レベルではなく「レクリエーションレベル」で実施。
- ・メジャースポーツだけでなく、バドミントンやニュースポーツのスポレックを取り入れることで、運動に馴染みのない人も楽しめる。
- ・仕事後に参加できる時間帯に実施。
- ・週3回行うことで予定の調整ができ、週1回以上の参加をしやすくしている。
- ・各地域に必ずある体育施設を活用することで、様々な地域で実施できる。
- ・新たな地域コミュニティがスポーツアフターワークをきっかけに創出されることで、そのコミュニティ独自でスポーツを楽しめる。



プロジェクト名	働く人のウェルビーイングを実現する「ウェルネスプログラム」
受賞者	株式会社ユーフォリア

所在地	東京都千代田区六番町5-5 飯田ビル2F
URL	https://eu-phoria.jp/service/wellness

①取組の経緯

スポーツ科学の知見を働く人の健康・安全管理に応用

スポーツテック企業のユーフォリアは、2013年よりアスリート向けコンディショニング管理システム「ONE TAP SPORTS (ワンタップスポーツ)」を通じ、アスリートの怪我予防、パフォーマンス向上をテクノロジーでサポートしてまいりました。現在、ラグビー日本代表をはじめプロチームを中心に国内外で71競技、1,700チーム以上に導入されています。

昨今コロナ禍において、工場や物流拠点等で勤務する身体的負荷の大きいワーカーの方々の健康被害が浮き彫りになったことから、多くの企業から働く人の健康管理に関するお問い合わせをいただくようになりました。

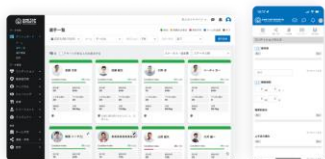
「身体不調による労働災害の発生や生産性低下」、「従業員の高齢化や人材不足」というお悩みでした。

一方、米国をはじめとした海外の製造・物流現場では、スポーツトレーナー等の専門家が現場に常駐し、働く人の健康管理を行うという取組がスタンダードになりつつあります。

そこで、これまでアスリートをサポートしてきた知見を応用し、働く人の運動参加を支援することで、健康で安全に働ける環境づくりに向けたプログラムを開発しました。

「ONE TAP SPORTS」を活用した
従業員のコンディショニング管理

スポーツ専門家による
改善プログラム提供



②事業の概要と特徴

現状可視化から改善プログラム、効果測定までを一貫し、専門トレーナーが最適なプログラムを提供

本事業は、トップアスリートが受けている評価方法・身体的ケアを働く人向けにカスタマイズした約2ヶ月間の伴走型プログラムで、「①サーベイやフィジカルチェックによる現状可視化」から、「②専門トレーナーによる運動プログラム(ストレッチや軽い運動についての動画配信など)の実施」、そして「③プログラムの効果測定」までを一貫して行うのが特徴です。

例えば、300名の工場の中で、肩こり腰痛を抱える30名の従業員様に対して実施しました。その結果、「プログラム満足度:90%」、「肩こり腰痛の改善実感:85%」と非常に高い効果が出ました。参加者の方からは「毎朝、軽く体を動かすだけでも、仕事の質が全然違う」などの声をいただき、さらに総務部ご担当者様からは「プログラムきっかけで従業員同士のコミュニケーションも生まれた」など、副次的な効果も実感いただきました。



③取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

働く一人ひとりがアスリートとして、スポーツ活動を始め始めるきっかけに

プログラムの最終ゴールは、参加者一人ひとりが自身のコンディションの高め方を理解し、ご自身で運動に取り組みながら健康を維持していくことです。

これまで実施した企業の中には、プログラム終了後に継続的にスポーツを始められる方も多くいらっしゃいました。「2ヶ月間のプログラム離脱率0%」という事例も出ているように、生活習慣改善もサポートすることで、継続的にスポーツに取り組む習慣づくりをご支援しています。

これまで約10年にわたりアスリートのコンディショニングを支えてきたユーフォリアが提供するウェルネスプログラムを通じて、働く人の抱える不調を改善し、継続的なスポーツ活動を促すことができると考えています。そして、高齢になっても長く元気で働ける環境を創ることで、日本の現場の社会課題の解決に寄与していきたいと考えております。



プロジェクト名	お昼休み☆20分ゆるゆるストレッチ
受賞者	一般社団法人 公園からの健康づくりネット

所在地	大阪市中央区谷町二丁目2-22 NSビル
URL	https://hjc.parkhealth.jp/

①取組の経緯

近所の公園で運動をはじめ、元気になってもらいたい

私たちは、公園から健康づくりを推進する団体として活動しており、これまでもさまざまな公園での運動プログラムを展開してきました。健康寿命の延伸を考えると、**高齢者になる前に運動習慣を身につけていただきたい**と思い、働く世代を対象にしましたが、お仕事に子育てに忙しい世代であり、公園での運動プログラムへの参加が少ない状況でした。

「働く世代に参加して欲しい」、さらに「近くの人を元気にしたい」と考え、近隣の中大江公園で運動プログラムを行うこととしました。中大江公園は、当団体事務所から徒歩5分の小規模な公園ですが、昼休みには多くのオフィスワーカーが昼食や休憩をしている平日の昼間も利用の多い公園です。

大阪市や公園愛護会の協力を得て、**だれもが気軽に参加できる運動プログラム「お昼休み☆20分ゆるゆるストレッチ」**を開催しました。

プログラム終了後は、自宅や職場で運動を続けるためのフォローアップを実施中。おうちや職場でもストレッチを続けるための冊子『**続けるストレッチBOOK**』を作成し、参加者に配布するとともにHPに掲載しています。あわせて、**ストレッチ動画も公開中!**

また、「うちの近くでもストレッチレッスンをやってほしい」という声を多数いただきましたので、格安で**出張ストレッチレッスンを行うキャンペーン**を開催し、インストラクターを派遣しています。



中大江公園のお昼休みのようす(事業実施前)



続けるストレッチBOOK

②事業の概要と特徴

お昼休みの20分、ストレッチでリフレッシュ

プログラムは**1回20分。週1回で3か月間・計10回**実施しました。近隣の会社で働く男性や女性が同僚を誘って参加したほか、近くにお住いの子育て中のママ、公園愛護会のみなさまなど、**延べ127名**が参加しました。

参加者からは、「からだのことがわかった」「姿勢に気をつけるようになった」「気軽にできる」「参加してよかった」「うちでストレッチをやっている」「今後も公園で続けてほしい」などの声をいただき、**満足度は100%**でした。参加できなかった方からも「お昼休みの時間が合えばぜひ参加したい」などのご意見をいただきました。

また、プログラム終了後は、参加者同士が楽しく雑談をするなど、**公園利用者間の交流**が生まれました。

■当事業の特徴
申込み不要・参加費無料・だれでもOK!
短時間・少人数・身近な公園・小規模な公園で開催

立ったままできる
股関節のストレッチ座ったままできる
背中ストレッチ

③取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

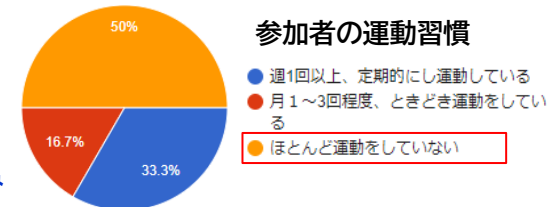
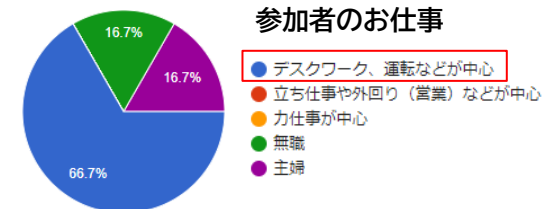
全国の公園で運動をはじめ、みんなを元気に!

当事業では、これまで運動プログラムの参加が難しかった「**運動習慣のない働く世代のオフィスワーカー**」を中心に参加していただくことができました。この仕組みで、全国の働く世代の健康づくりを推進するきっかけづくりができると考えられます。

このプログラムは、小規模で身近な公園でも実施することができます。**都市公園は全国に11万カ所**あります。公園を活用することで、市民のこころとからだを元気にすることができます。

みなさまから「もっと広く地域に広めたい、継続してほしい」というご要望をいただき、**来年度も実施する予定**ですが、当団体が運営経費を負担して「オフィスワーカーに運動の機会を提供する実験」として行っている事業のため、継続し続けることができません。

今後は大阪市公園緑地部や公園愛護会など、関係者のみなさんと連携し、毎回インストラクターが指導しなくても**参加者同士で自主的にお昼休みにストレッチを行える仕組み**を整えていきます。



プロジェクト名	シニア向け「健康ダンス教室」の開催
受賞者	一般社団法人ダンス教育振興連盟JDAC

所在地	大阪府大阪市城東区成育2-11-21-1F
URL	https://www.jdac.jp/

①取組の経緯

安心・安全はもちろん、楽しさを大事に！

以前より、認知症予防・身体機能の維持・筋力の向上などを目的とし、企業や自治体に対し、シニア向けダンス企画を実施して参りました。令和2年度からは、大阪市の各区が運営する「なにわ元気塾」の講座の一つとして、シニアの方を対象に「健康ダンス教室」の定期開催をスタートしました。市ではこれまでも健康体操などの講座を開催していたものの、参加者に飽きがきて続かない、マンネリ化しているなど様々な課題を抱えておられたため、ダンスであれば、無理なく楽しみながら健康増進できるプログラムを提供出来るとご提案したところ導入が決まりました。理学療法士が監修した安全性の高いプログラムで、音楽に合わせたストレッチ、脳トレ、オリジナルの振付によるダンスを約60分間行います。使用する曲は参加者の世代に合わせて、青春時代を思い出すような曲や、誰もが知るヒット曲を選ぶことで、聞いているだけで楽しくなり、身体を動かしたくなるような工夫をしています。また参加者の状態に合わせて運動強度を変えるため、体力に自信のない方、ダンスをやったことがない方、椅子に座ったままでも無理なく参加いただけます。このように、強度、スピードなどを自在に変えることが出来るのもダンスの特徴の1つです。また振付を定期的に変えることで脳の活性化にも繋がります。続けるうちに、参加者同士が講座の後にお茶をしに行くなどコミュニケーションを取るようになったことも大きな成果でした。指導にあたるのは、スポーツ庁・厚生労働省が後援する研修会を受講した、知識・経験共に豊富なダンス指導資格保持者で、中には介護士や看護師としても活躍する者もあり、専門的な知見も活かした指導を行っています。



②事業の概要と特徴

5,000名を超える参加者！各賞を受賞！

本取り組みは、令和2年度は大阪市内3区での開催でしたが、各区の横の繋がりによる口コミや参加者からの声を受け、令和3年度からは13区に拡大。令和4年度はさらに開催回数が増加し、年間200回を超える開催になる見込みです。事業開始からずっとコロナ禍で人数制限を行なっているにも関わらず、本年度末には、延べ5,000名以上の方々の参加実績となる見込みです。参加者からは、「ダンスは未経験だったが思ったよりも出来たので楽しかった」「家でも復習したい。次の開催はいつですか？」等、前向きなお声を多く頂戴しております。なお、本取り組みが評価され、今年度「第6回大阪府健康づくりアワード」にて【地域部門・奨励賞】を、スマート・ライフ・プロジェクトの「第11回健康寿命をのばそう！アワード」にて【厚生労働省健康局長優良賞】を受賞致しました。

健康寿命をのばそう！アワード
主催：厚生労働省・スポーツ庁



③取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

老若男女問わず楽しめるダンスは万能のスポーツ！

コロナ禍による高齢者の運動機能や認知機能の低下が問題となっていましたが、楽しく無理なく身体を動かすことができるダンスは、脳の活性化、心肺機能の向上にも繋がることから、需要が高まっています。また、音楽に合わせて身体を動かすことで、気持ちもアクティブになり、参加者が能動的に自ら運動習慣を身に付けておられることも特徴的です。講座開始前には、こうした「ダンスの効果」について説明をしたプリントも配布しており、参加者の理解度を高める工夫も行っています。今後は、参加者の継続性やモチベーションアップを図ること、そして新たな楽しみ・生きがい・やりがいに繋げていくため、半年～年に1回は成果発表の場を設ける予定です。地域全体を巻き込んで、高齢者の方だけではなく、幼稚園や小学校、高校のダンス部なども一緒に集う場として、多世代が交流できる発表会を行いたいと考えています。また地域の方が世代を問わず誰でも簡単に踊れる統一のダンスの振りを作ることで、新たなコミュニケーション方法として、また運動を始めるきっかけとして活用いただけるのではと考えております。本取り組みを全国の地域に広げ、より多くの方にダンスを健康寿命延伸のために気軽に取り入れていただき、生活習慣の一部としていただけるよう活動して参ります。

プロジェクト名	しながわ学校2020レガシー
受賞者	品川区教育委員会

所在地	品川区広町2-1-36
URL	https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/PC/kukyoi/index.html

①取組の経緯

オリンピック・パラリンピック教育のレガシーとして

東京2020大会に向けたオリンピック・パラリンピック教育において、競技会場を持つ品川区では、区独自教材「よい、ドン! しながわ」(1~4年生用、5~9年生用)を作成し、全区立学校児童・生徒へ配布し、各授業の中で活用できるようにした。また、区内開催・応援競技であるホッケー、ビーチバレーボール、5人制サッカー(ブラインドサッカー)をはじめとした様々な体験活動を実施するなど、区の施策として充実・推進してきた。

子どもたちは、各学校・園の特色を生かした活動を通して、ルールやマナーを遵守することやフェアなプレイを大切にすることを学ぶことができた。また、パラリンピック競技などの障害者スポーツの体験や交流、パラリンピアン講演など他者の生き方にふれる体験を通して、「する、みる、支える、知る」といった、スポーツとの多様な関わり方やスポーツの価値にふれる機会を創出することができた。

東京2020大会以降も、こうした各学校・園の特色を生かした活動を持続可能な教育活動となるようにし、子どもたち一人一人の心と体に残る掛け替えのないレガシーとして継続していけるように「しながわ学校2020レガシー」を実施することとした。



品川区オリンピック・パラリンピック学習教材
「よい、ドン! しながわ」



品川区オリンピック・パラリンピック
教育記念誌

②事業の概要と特徴

しながわ学校2020レガシーの取組

●各学校・園での取組

これまでの体験活動を継続できるように、区独自で予算措置(1校50,000円)をした。区より配当された予算を活用し、これまでのオリンピック・パラリンピック教育で充実してきた内容や地域性を生かした取組など、それぞれの特色を生かした活動を展開している。

●5人制サッカー(ブラインドサッカー)

区内開催・応援競技であった5人制サッカー(ブラインドサッカー)について、教職員への研修を年1回開催するとともに、8年生の全生徒に対しての体験教室を実施している。
・子どもたち…スポーツ志向にとどまらず、他者を思いやり、寄り添ったりしようとする心情を醸成し、障害者理解にもつながっている。
・教職員…体験を通して、言葉かけや支援の方法などを学び、自身の指導改善につなげている。子どもたちへのよりよい授業づくりについて考える契機となっている。



各学校・園での取組(ホッケー体験)



5人制サッカー研修(教職員)

③取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

豊かなスポーツライフの実現に向けて

全区立学校・園において、約180の活動を実施し、各学校・園の地域性や特色を生かした多彩な活動を実施した。体験を通して、子どもたちが「スポーツ志向」「障害者理解」などの資質・能力を身に付けるとともに、「する、みる、支える、知る」といったスポーツとの多様な関わり方やスポーツの価値を味わうことができた。

5人制サッカー(ブラインドサッカー)体験教室では、教師・生徒ともに、体験を通して同競技の理解を深め、パラリンピック競技をはじめ、他の競技への興味をもつことや、体を動かすことの楽しさや喜びを改めて感じる事ができた。併せて「伝える」ことの大切さ、多くの人たちに支えられて競技が実施されていることなど、スポーツのもつ多様な価値や魅力にも気付くことができた。

こうした学びが、子どもたち一人一人の日常の授業や生活に生かされている。そして、将来においても、それぞれの形で自分の生活にスポーツを取り入れ、自分の生活をより豊かにしていくことにつながっていくことが期待される。

今後は、次回パリ大会に向けて、これまでの取組とそこで得られる子どもたちの学びを継続・発展させていくとともに、さらに、品川コミュニティ・スクールとの連携を深め、学校、家庭、地域が一体となった持続可能な取組へと進化させていく。



プロジェクト名	スポーツのチカラで村を元気に！ 地域多世代交流活動「孀恋村フィットネスフェスタ2022」
受賞者	孀恋村

所在地	群馬県吾妻郡孀恋村大字大前110
URL	https://www.vill.tsumagoi.gunma.jp/

①取組の経緯

スポーツの力で地域を元気に！

孀恋村は、2019年の台風19号による甚大な災害や、2020年新型コロナウイルスの世界的な流行から、村内の観光・宿泊施設、飲食店や農家をはじめ、孀恋村民の暮らしに不安な日々が続きました。そこで、世代を超えた「助け合い」や「つながり」を創出し、「心の復興」と「カラダも元気に」をスローガンにした様々な取組を行ってきました。令和3年度はSport in Life推進プロジェクト「ターゲット横断的なスポーツ実施者の増加方策事業」の採択を受け、「～スポーツのチカラ×地域課題の解決～コロナからの復興「no rain no rainbow」ダンスムービープロジェクト」を行い、過疎に高齢化、豪雨や震災、コロナ禍など、様々な課題を抱える地域が、スポーツの力で地域を元気にする取組を官民連携で行ってきました。



②事業の概要と特徴

地域多世代交流の活動として

今回、村と地域が連携した独自事業として、子どもから高齢者まで全ての村民が「スポーツのチカラで元気に、笑顔になれる」ように、地域多世代交流の活動として、「健康」、「防災」、「遊び」という、地域で取り組んでいきたい課題をテーマにした「孀恋村フィットネスフェスタ2022」を、春と夏の2回開催しました。多世代交流や多様な人々が、様々な形で参画できる接点づくりを行い、持続可能な取組にしていくための仕掛けとして、①子どもから高齢者まで様々な世代が一緒に楽しめるプログラム、②地域のプロスポーツとの共創、③地域の多様な人材がプレイヤーとして活躍できる、体制づくりを行いました。具体的には「プロサッカーチーム(ガスパ草津)によるサッカー教室」「プールを使った水泳教室」「ウォーターサバゲー」「ヨガ」「Group Fight」「モルック」に加え、地域の人気店のフードトラックも集め、スポーツをテーマにした「マルシェ」の様なイベントに仕立てました。

- ・春のフィットネスフェスタ(令和4年5月5日) 259名参加
- ・フィットネスサマーフェスタ(令和4年8月11日) 187名参加



③取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

村の新しい地域イベントへ

①子どもから高齢者まで多世代で楽しめるイベント

託児所を用意し、子育てで忙しい方へ向けたヨガやGroup Fightエクササイズを用意したり、親子で楽しめるプログラムも盛沢山に用意し、子どもが親を巻き込む形にしました。また、広域消防と連携したAED/救急救命体験会や、ウォーキング教室、体力測定会、地元の飲食店やフードトラックを集めたフードコートなど、あらゆる世代が楽しめる企画にし、一日を通して楽しくカラダを動かす機会を創出しました。

②庁内の部署連携と地域事業者との連携

スポーツ協会、スポーツ推進委員、吾妻広域消防本部孀恋分署、庁内の教育委員会、健康福祉課などの部署連携に留まらず、ガスパ草津チャレンジャーズ、子育てサポーターほっと、孀恋ボードゲームクラブ、地域の飲食店・フードトラックなど住民事業者、クラブとの連携を図ることで、幅の広いプログラムを集めることができ、世代横断型のイベントとなりました。

③シーズン毎に開催する定期イベントへ発展

初回の春のフィットネスフェスタには多くの村民が参加し、このイベントを通して通常実施している運動教室への参加者が増えたことで、さらに進化させた形でフィットネスサマーフェスタを開催するに至りました。今後は新しい地域イベントとして、シーズン毎の開催を計画しています。



プロジェクト名	館山市スポーツ推進委員による、身近で気軽な楽しいスポーツ事業！
受賞者	館山市

所在地	千葉県館山市北条1145-1
URL	https://www.city.tateyama.chiba.jp/sports/page100539.html

①取組の経緯

当市が取り組んだ、「館山市スポーツ推進委員による、身近で気軽な楽しいスポーツ事業！」は、新型コロナウイルス感染症への対応が取れるようになり始めた今年(2022年)に、市民のスポーツへの関心を高めるために館山市スポーツ推進委員が、積極的に開催した事業です。新型コロナウイルス感染症により、スポーツから離れてしまった方や、自宅でもできる軽運動を知りたい方からの声を受けての「楽しい運動教室」開催となっています。



②事業の概要と特徴

館山市スポーツ推進委員連絡協議会では、多くの市民に気軽にスポーツに取り組んでもらうため、様々な活動を行っています。8月を除く毎月開催されている「楽しい運動教室」では、各月で異なるスポーツ推進委員が、得意な運動を生かした教室を実施して、気軽に行える運動の指導をしています。スポーツ推進委員1人1人の特色が現れていて、毎月の参加者は飽きずに、スポーツを楽しんでいます。5月に実施した「鏡ヶ浦サンセットウォーキング」は、夕日を眺めながらウォーキングすることを提唱するイベントです。ウォーキングは、一番身近な運動であり、誰でもすぐに始められるため、参加者は心身ともにリフレッシュしています。6月に行われた「館山市ポッチャ大会」は、館山市初のポッチャ大会として新たに開催されたイベントで、市内でのユニバーサルスポーツに対する関心が高まりました。10月には「私の体力チェック」と題した大人向けの体力測定会を実施し、体組成計などの測定結果も絡めたアドバイスをを行い、生活習慣の見直しや運動習慣の提案をしました。仕事終わりの方にも、参加してもらえるように、夕方に開催するという工夫をしています。



③取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

定期的実施している「楽しい運動教室」では、リピーターの方が多く、またほかのイベントにも参加していただき運動の習慣化につながっています。「館山市ポッチャ大会」では、子供から高齢者、障がい者まで87の方が参加し、うち4割程度の方は初めてポッチャを経験する機会となり、ユニバーサルスポーツを始めるきっかけを提案できました。これらのイベントに共通しているメリットとして、スポーツ推進委員が自主的、主体的に実際のイベントを企画・運営しており、参加者・市民・地域の方々からの声を直接聞くことが出来る点です。実際に大会後には、「スポーツ推進委員を講師に、ポッチャを教えてください。」という問い合わせが多く寄せられたため、地域の公民館や集会所などでルール説明や技術指導を行い、更なる普及に努めています。ポッチャは、年齢や性別、障がいの有無を問わないスポーツであるため、普段接する機会の少ない人との交流を楽しみながら、スポーツに取り組めることが参加者アンケートの結果からわかりました。館山市のスポーツ課では、ポッチャの用具を6セット所持しており、市民に貸し出しも行っています。今年度は、ポッチャ大会後から貸出数が増えました。今後も、定期的な大会や教室を計画し、人生100年時代における子供からお年寄りまですべての地域住民がスポーツを通じてアクティブに活動し、活力のある社会の実現を目指します。